

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立第二中学校

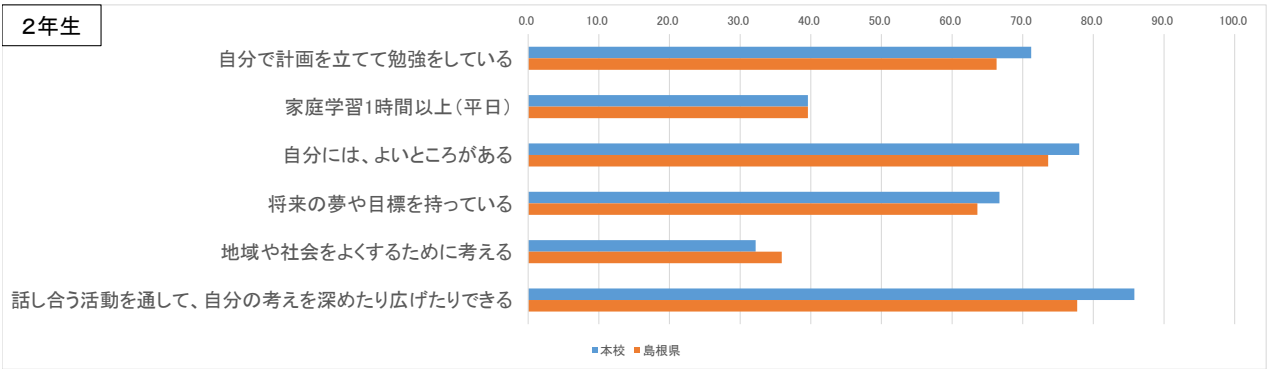
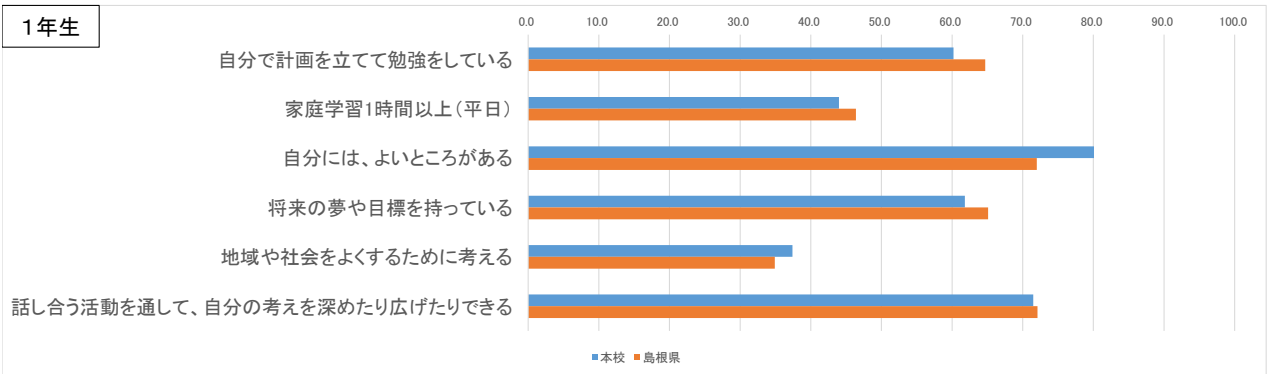
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○「基礎」「活用」とともに県・市の平均を上回っている。 ○領域や内容については、「言葉の特徴や言語事項、内容の読み取りや書くこと」が上回っている。 ●「漢字の読み書きや聞き取り、情報の扱い方」などは正答率が低く、市・県の正答率を下回った。 ●授業の中で、小テストを利用して漢字の読み書きの徹底を図ったり、グラフや説明文から読みとったことをもとに自分の考えをまとめる活動を取り入れて作文力の向上を図ったりしていく必要がある。	○漢字を読むことと、文学的な文章の内容を読み取ることは、ともに県・市の平均を上回っている。 ●「基礎」「活用」とともに県・市の平均を下回っており、特に書くことに関する分野が苦手な生徒が多い。 ●授業の中で、漢字の読み書きの帯活動を取り入れているが、学んだ知識を活用できるような活動を工夫する必要がある。
数学	○基本的な計算の技能が身に付いている。 ○文章を読み取り方程式を立てることができている。 ●比例の式や座標など関数分野が苦手な生徒が多いため、グラフや作図など、作業に時間がかかる生徒が多く、体験を授業の中で増やしていく必要がある。 ●図形や位置関係の理解が不十分であるため、毎回の授業での小テストにより、基礎的な問題は身に付いてきているので続けていく必要がある。	○基本的な計算の技能が身に付いている。 ○与えられた事柄を利用して、等しい角を求めたり、正しい合同条件を判断したりすることができる。 ●一次関数のグラフを読み取ったり、文章から必要な情報を取り出したりすることが苦手な生徒が多い。小テストの実施により、基礎的な力が向上しているので継続する。 ●証明が苦手な生徒が多い。ノートをまとめる時間を確保することで理解を深める必要がある。□
英語	○語順を意識し、英文を書くことができている。 ●質問に対して適切な応答ができている。 ●聞き取りや読み取りをした話の概要を書いたり、感想を書いたりすることができない生徒が多いため、帯活動でQ&Aを取り入れるなどして自然な対話の応答をする力の育成を図る必要がある。 ●まとまった英作文を書くことが苦手な生徒が多いため、Retellの活動を充実させ、話の概要のまとめをしたり感想を伝えたりする力を養っていく必要がある。	○対話文の応答を問うリスニングや語順整序による英作文に関する問題については、やや成果が出ている。 ●語形・語法の知識・理解を問う問題の正答率が特に低い。授業で学習した後も文法事項の定着を維持させるために小テストやタブレットドリル等を活用して、繰り返し触れる機会を設ける必要がある。 ●目的・場面・状況に応じて英作文を書く力が特に弱いため、英語で表現する活動を増やす必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○学校、家ともに挨拶をする、決まりを守るなどの基本的な生活習慣が身に付いていると感じている生徒が多い。 ○各教科では、先生の話をしっかり聞く、きちんとノートをとるなど授業態度がよいと答えた生徒も多いが、実態と生徒の意識の差が大きい場面も見られる。 ●教科で学習した内容が、新聞を読むことなど、身近な場面での活用している生徒が少ないため、実生活とつなぐ工夫する必要がある。 ●地域での活動について、関心を持ち行動に移す生徒が少ない。総合的な学習の時間などで、地域の一員として考え、行動しようとする意識を育てる必要がある。	○基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多い。特に、朝は自分で起きている生徒、学校に出かける前に忘れ物がないか確かめている生徒が多い。 ●「地域の行事に参加している」と答えた生徒が県平均より約10pt下回っている。地域のボランティア活動に参加している生徒は多くいるが、総合的な学習を通して地域の一員として自分ができていることを考え、行動しようとする姿勢を育てる必要がある。 ●「参考書や問題集などを使って、勉強をしている」と答えた生徒が県との比較では低い数値となっている。繰り返し問題集を解く習慣作りが必要である。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】 1年生 245 名 2年生 177 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)